

演習問題 No.5

学生番号 _____ 氏名 _____

by Miyatake with pL^AT_EX 2_ε

1 3相-2相変換

3相の対称な交流

$$a = \cos(\omega t), b = \cos\left(\omega t - \frac{2\pi}{3}\right), c = \cos\left(\omega t - \frac{4\pi}{3}\right) \quad (1)$$

を想定するとき、

$$\begin{bmatrix} \alpha \\ \beta \end{bmatrix} = \sqrt{\frac{2}{3}} \begin{bmatrix} 1 & -1/2 & -1/2 \\ 0 & \sqrt{3}/2 & -\sqrt{3}/2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} a \\ b \\ c \end{bmatrix} \quad (2)$$

の変換を行うと、

$$\begin{aligned} \alpha &= \boxed{} \cos\left(\boxed{}\right) \\ \beta &= \boxed{} \sin\left(\boxed{}\right) \end{aligned} \quad (3)$$

となり、位相差 $\boxed{}$ の2相交流となる。

ヒント：加法定理

$$\cos(\alpha - \beta) = \cos(\alpha)\cos(\beta) + \sin(\alpha)\sin(\beta)$$

2 2相-2相変換

図1のように、直交座標 $\alpha - \beta$ と、それと角 ωt をなす座標 $d - q$ を考える。(座標 $d - q$ は回転している)

$$\begin{bmatrix} d \\ q \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \cos \omega t & \sin \omega t \\ -\sin \omega t & \cos \omega t \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \alpha \\ \beta \end{bmatrix} \quad (4)$$

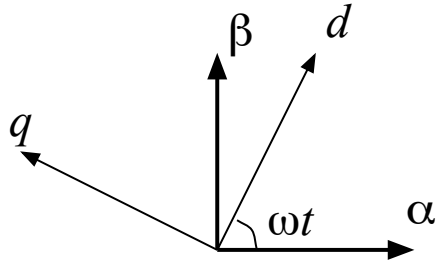


図 1: 座標軸の設定

ここで、2つの直交座標軸 $\alpha - \beta, d - q$ を (5) 式の複素数で表す。

$$\gamma = \alpha + j\beta, \quad c = d + jq \quad (5)$$

このとき、(4) 式と (6) 式が同値であることを示す。

$$c = e^{-j\omega t} \gamma \quad (6)$$

ただし、 $e^{-j\omega t} =$

(6) 式に (5) を代入して計算すると、(7) 式となる。

$$d + jq = \text{} + j \text{} \quad (7)$$

この実部と虚部を比べると、(4) 式と等しいことが分かる¹。よって、2相どうしの変換であれば、複素ベクトルでも扱うことができ、こちらの方が扱いやすいことも多い。

ここで、 $\gamma = \cos(\omega t + \theta) + j \sin(\omega t + \theta) = e^{j(\omega t + \theta)}$ の2相交流を考えると、

$$c = \text{} \quad (8)$$

となり、 $d - q$ 軸上では周波数が 0、すなわち直流となることが分かる。

¹(4) 式と (6) 式の両辺を微分したのも同値となる。余裕があればやってみよ。ただし、 $\theta = \omega t, \alpha, \beta$ とも時間変化するので、その積を微分する際には注意。